

技術の粋を極めた最高峰のギター・ルシアー  
Contemporary Jazz Magazine

# jazzLife

## TRIX COVER STORY

19作目のオリジナル・アルバム  
『ミラクル』をリリース

9  
2022  
SEPTEMBER



INTERVIEW

ボブ・ミンツァー

野呂一生&勝田一樹

鳥山雄司

TOKU

成川修士TRIO

川籐祐子

山田夢子

LIVE REPORT

SHAG / 国府弘子

DIMENSION

伊藤志宏 Trio Syncretia

ANSWER TO REMEMBER

SCORE

ステラ・バイ・スターライト

オスカー・ピーターソン

ワンス・イン・ア・ホワイル

(ジャストロンペット入門 2)

EVENT  
INFORMATION

曽根麻央「ヤマハ ジャズ フェスティバル 2022」を語る



COVER STORY :

# TRIX

4 19作目のオリジナル・アルバム『ミラクル』をリリース

新作インタビュー

## ボブ・ミンツァー

8 イエロージャケッツの新作『パラレル・モーション』を語る

## 鳥山雄司

10 和泉宏隆トリビュート・アルバムを総合プロデュース

## TOKU

12 全32曲を収録した自身初となるベスト盤をリリース

## 山田夢子

14 「ジャズ・ヴォーカル・オーディション」グランプリ受賞者がデビュー作発表

## 成川修士TRIO

42 アナログ・レコーディングによる一発録音で収録した意欲作

## 川鱈祐子

44 ロックとジャズのコラボレーションによって制作された新作

●スペシャル対談

## 野呂一生&勝田一樹

16 「J-FUSION BLUE NOTE TOKYO SPECIAL」の意気込みを語る

●EVENT INFORMATION

## 曾根麻央

18 「ヤマハ ジャズ フェスティバル 2022」を語る

# jazzLife

SEPTEMBER 2022 VOL.539

JazzLife Official Site  
https://www.jazzlife.co.jp

9

Cover Photo  
TRIX  
撮影：尾形隆夫  
Cover Design  
Harumi Hatsugai / Gai DESIGN

## CONTENTS

●連載 Tokyo Calling

26 伊藤志宏 Trio Syncretia  
at Jazz Spot Dolphy

●LIVE REPORT

28 ANSWER TO REMEMBER  
at 南青山・ブルーノート東京

46 SHAG  
at 恵比寿・リキッドルーム

48 DIMENSION  
at 南青山・ブルーノート東京

50 国府弘子  
at 渋谷・JZ Brat SOUND OF TOKYO

51 飯田さつき  
at 渋谷・大和田「さくらホール」

●連載

70 海野雅威のジャズってやっぱり素晴らしい!  
第37回：ジャズ喫茶「ジス・イズ」とマスターの思い出

●楽器企画

20 技術の粋を極めた最高峰のギター・ルシアー  
～ディアンジェリコとダキストを継承する近年の匠たち～

22 NEW PRODUCTS  
新製品インフォメーション

●連載セミナー

54 横田寛之(sax) サックス講座 (隔月掲載)  
コペルニクスのジャズ・サックス  
第23回：リズムについて 5

56 大塚 寧(p) ピアノ講座 (隔月掲載)  
基礎から学ぼう “簡単”ジャズ・ピアノ  
第23回：ソロ・ピアノ入門

59 岡崎好朗(tp) ジャズ・トランペット入門2  
スタンダード&ジャズ・チューン攻略法  
第45回：クリフォード・ブラウン(コバッド)奏法を学ぶ

62 池田達也(b) “お気楽”ウッド・ベース入門 第二章  
第103回：ハイ・ポジション 3

●スコア

60 ワンス・イン・ア・ホワイ尔/  
(ジャズ・トランペット入門2)

63 ステラ・バイ・スターライト/  
オスカー・ピーターソン

●ジャズ最新情報

31 DISC REVIEW～Jazz Life ディスク・レビュー

38 輸入盤ディスク・レビュー

67 JAZZ NEWS～国内外のジャズ情報を満載

71 楽器ニュース

72 来日&イベント・スケジュール

73 LIVE INFO～全国ライブハウス・スケジュール

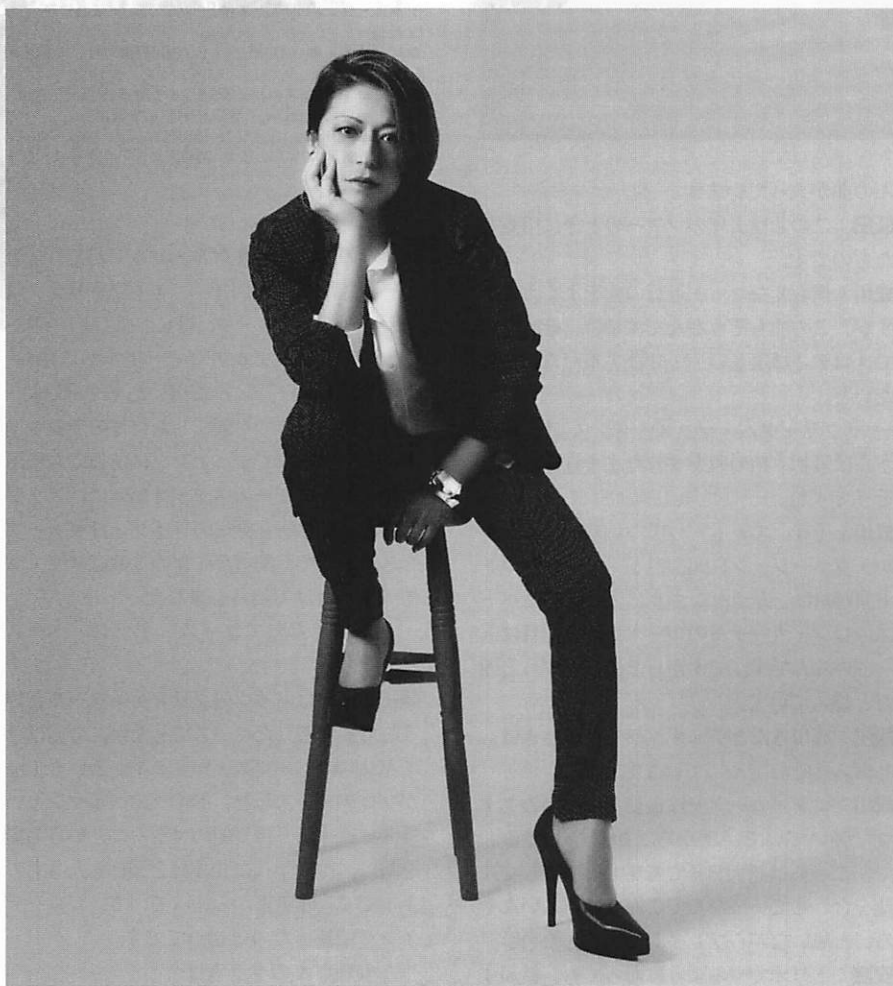
80 バックナンバーのお知らせ

ロックとジャズのコラボレーションによって制作されたボーダレスな作品が登場

# 川 鯨 祐 子

YUKO KAWABATA

好きなジャズとロックの名曲を  
1曲にして作り上げた  
ボーダレスなストーリー



## 好きな空間でジャンルを超えて 融合した音楽を聴いてほしい

—新作『ロッキン・ジャズ・イン・ア・ルーム』は2007年の『エイト・オブ・ニューヨーカーズ』以来、15年ぶりの2枚目のアルバムですか？

川鯨：はい、そうです。前作は2001年から毎年夏に、ニューヨークでの留学を重ねるうちに知り合いができて、どうしてもCDを作りたい気持ちになって自主制作しました。メンバーは大野智子(p)さん、植田典子(b)さん、Taro Okamoto(ds)さん。2012年に岐阜でDIVAトリオ(大野、植田、シェリー・マリクル)との共演公演を行なっています。自分の中では、楽しい思い出として完結していました。ロックとジャズの融合に関しては15年以

上前から興味があって、今回は制作を提案されて、どうせCDを作るならば、やりたいことをやってみよう、と思ったのがきっかけです。

—アルバム名に込めたメッセージは？

川鯨：ロックとジャズが融合していることが伝わる言葉を考えていて、「ロッキン・ジャズ」という言葉を造りました。「イン・ア・ルーム」は、音楽は主に屋内の空間で聴くものだと思っていて、みなさんのお好きな空間で、ジャンルを超えて融合した音楽を聴いていただく、というイメージです。

—ロックとジャズの融合を始めたのはいつから？

川鯨：具体的な形で始まったのは、最初に平手裕紀(p,org,tp)さんに「ストロミー・ウェザー」のアレンジをお願いした去年の3月で、

岐阜を拠点に活動を行なっているヴォーカリスト川鯨祐子が、2ndアルバム『ロッキン・ジャズ・イン・ア・ルーム』を完成させた。この新作は、ジャズとロックの名曲を自身が組み合わせ、新たな解釈で作り上げた彼女だけのストーリー。ジャズと出会って20年という時を経て、これまでにない世界を歌い上げたまさに“ジャズ”と“ロック”のコラボ作品に仕上がった。制作過程のアイデアをはじめ、共演ミュージシャンの魅力など詳しい話を聞いた。

### PROFILE

川鯨祐子 (vocal)

岐阜県岐阜市生まれ。母は、シャンソン歌手の遠藤伸子。母親の影響で、幼少の頃から自然に歌を歌うことに親しみ、中学～高校時代は、コーラス部に所属。関西の大学に進み、ESS(英語研究会)に所属した。在学中、米国留学し、ケンタッキー州最大の都市ルイビルで暮らした。ここでアメリカ音楽や本場のジャズに触れる。卒業後、ジャズ・シンガーの道を歩み始める。毎年、ニューヨークに音楽留学を始め、2007年には、「エイト・オブ・ニューヨーカーズ」をレコーディング。メンバーは、大野智子(p)、植田典子(b)、Taro Okamoto(ds)というニューヨークで活躍する精鋭で構成。

WEB=https://yukokawabata-jazz.com

CD制作の話が出る前のことです。まず曲をひとつずつ増やしていった、その後にCDの形になれば、という思いでした。

—元々ロックが好きだった？

川鯨：特にそういうわけではなくて、音楽自分史みたいな感じで思い浮かべると、折に触れてロックの名曲を知ることが多かった。いい曲がたくさんありますから。私が好きなジャズと、ジャンルを超えてストーリーを作ること、キーワードを見つけて2曲を1曲にすることをしたい、というアイデアです。

—ロックとジャズの融合曲のライブ実績は？

川鯨：CDを作ることをまだ考えていない段階で、融合曲が2～3曲できました。自分の気持ちが途中からCD制作に切り替わったので、ステージでは時々挟み込む程度で、あまり披露しないようにと心が変わりました。

—メンバーとの共演歴は？

川鯨：小濱安浩(ts,ss)さん、平手さん、北川弘幸(b)さん、浅井翔太(ds,perc)さんとは、それぞれ個別では共演経験がありました。このバンドとしては今回のレコーディングが初めてです。また大野智子さんには3曲のアレンジをお願いしました。

—「サタデイ・イン・ザ・パーク&オン・ザ・サニー・サイド・オブ・ザ・ストリート」は、シカゴのヒット曲とスタンダード曲の組み合わせです。

川鯨：「サタデイ〜」(1972年)はベトナム戦争が背景にあって、「サニー・サイド〜」(1930年)が世界大恐慌の鬱屈した時代が背景の歌詞です。どちらも人々を元気づける、暗いもの



に対して頑張ろう、とのメッセージがあります。背中を押してくれるような、キラキラとした感じ。私は「サタデイ〜」のあの雰囲気壊したくないので、私が歌う時のキーが違うそれぞれの曲の展開を含めて、どうしたら自然に繋がるかをコンセプトに、平手さんとはアレンジの完成までに、何度かやり取りをしました。明るい気持ちでこの曲を表現したかったので、小濱さんはそのイメージにピッタリのテナーを演奏してくれました。

—「おいしい水&スモーク・オン・ザ・ウォーター」はアントニオ・カルロス・ジョビンとディープ・パープルの合体です。

**川鱈**：最初は“水”繋がりがきっかけで、ふと、融合できるのではないだろうか、と思いました。「おいしい水」は私が好きな曲で、ずっと前から歌い続けています。この曲に合う融合曲を探して、「スモーク〜」に辿り着きました。平手さんのアレンジ・コンセプトは、リスナーに違和感なく2曲の融合を聴いてもらうことで、両者を行ったり来たりしながら最後に盛り上がる構成です。

—「ザ・ニエス・オブ・ユー」の選曲理由は？

**川鱈**：前作「エイト・オブ〜」の収録曲で、大野さんとのデュオでした。その時の気持ちと今回の気持ちを、歌うことでどうやったら比較できるかな、という思いがありました。これはふたつの融合曲ではありませんが、自分の挑戦への融合という意味があります。バラードを別の何かと融合させたいとも考えましたが、全曲がそうだと疲れてしまうので、リスナーにも自分にもクッションが必要だと思います、バラードに仕上げました。メロディを聴くと幸せな気持ちになるのが、この曲の好きなどころです。

## 私の音楽史の途中経過と言える無限の可能性を秘めた新作

—「チュニジアの夜&ウスクダラ」は、ディジー・ガレスピー(tp)とトルコ民謡の合体です。

**川鱈**：この2曲はコード進行が似ている、エキゾチックな曲調。「ウスクダラ」は最初にアーサー・キット歌唱バージョンを見つけました。2曲とも、“何でも売っている中近東の街”のイメージ。敢えてごちゃごちゃしたサウ

ンドで、駆け抜けていく2曲をひとつにしたかった。浅井さんに“いろいろな打楽器を持ってきて”とお願いして、ドラムとパーカッションの掛け合いを多重録音で仕上げてもらいました。

—「ウィル・ユー・スティル・ラヴ・ミー・トゥモロウ」はアコースティックギターとのデュオです。

**川鱈**：ロック・ギタリストの道祖さんと知り合って、どうしてもデュオ曲をやってみたかった。オリジナルのキャロル・キング(vo)の切ない感じが好きで、新作のために探して見つけた曲です。キャロル・キングのナンバーに関しては、「君の友達『イツ・トゥー・レイト』をライブ・レパトリーにしています。

—「オレンジ・カラード・スカイ」は1950年のナット・キング・コール(vo,p)が初リリースでした。

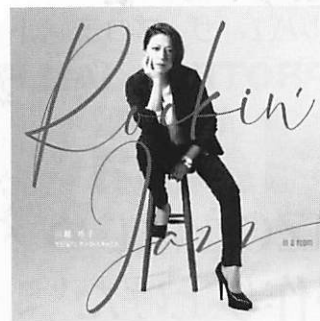
**川鱈**：ナット・キング・コールのヴァージョンで初めて聴き、ナタリー・コール(vo)がビッグバンドと共演したヴァージョンを動画サイトで観て、いい曲だなと思いました。以前からライブのレパトリーです。映画「メリー・ポピンズ」の劇中歌「スーパーカリフラジリスティックエクスピアリドーシャス」を引用して、早口で歌っています。「隠れミッキーを探せ」のような意図で、敢えてこの曲の中に入れてみました。

—「ストーミー・ウェザー&セイリング」の合体理由は？

**川鱈**：「ストーミー〜」の歌詞内容は自分がどん底で、気持ちが荒んでいる様子を歌っている曲。ロッド・スチュワート(vo)の「セイリング」は待っている人のために今から荒波を超えていくという歌です。この2曲をひとつにするので、惨めだと言っているけれど、頑張らなければ、というストーリーを表現したいと思いました。「セイリング」と繋げることで、「ストーミー〜」のその後の物語を描くことを考えたのです。「セイリング」に「ストーミー・ウォーター」という言葉が何度も出てくるので、1ヶ所だけ歌詞を「ストーミー・ウェザー」に変えています。

—「青い影&テネシー・ワルツ」を合体した理由は？

**川鱈**：2曲のキーワードは「ダンスホール」。「テネシー」はダンスホールで自分の彼氏を女友達に紹介したら、彼女に取られてしまった、という歌詞内容。私の中では、2曲とも後ろ向きなイメージではなく、“そんなこともあったね”という思い出に浸っている感じがあります。繋げると面白いかな、と思いました。最終的にはメンバーと相談して、「青い影」にはプロコル・ハルムの原曲と同じようにオルガンを入れることにしました。アレンジャーの大野さんに相談したところ、「テネシー・ワルツ」は4拍子のボサ・ノヴァを提案されました。この曲はしっかりと歌うイメージ



## 「ロッキン・ジャズ・イン・ア・ルーム」

**川鱈** 祐子  
ホワッツ・ニュー(Swing Cat)GWNJ-5017 8月24日発売  
●収録曲 ● ①サタデイ・イン・ザ・パーク&オン・ザ・サニー・サイド・オブ・ザ・ストリート ②おいしい水&スモーク・オン・ザ・ウォーター ③ザ・ニエス・オブ・ユー ④チュニジアの夜&ウスクダラ ⑤ウィル・ユー・スティル・ラヴ・ミー・トゥモロウ ⑥オレンジ・カラード・スカイ ⑦ストーミー・ウェザー&セイリング ⑧青い影&テネシー・ワルツ ⑨マイ・フェイヴァリット・シングス ⑩L-O-V-E ●パースナル ● 川鱈祐子(vo)、小濱安浩(ts,ss)、平手裕紀(p,org,tp,arr)、道祖淳平(g)、北川弘幸(b)、浅井翔太(ds,perc)、大野智子(arr)  
●録音 ● 2022年1月27日、28日 千葉[GROOVE STUDIO]にて録音

が強いけれど、軽快なテンポで始めたら面白いのではないかと提案され、実際上手いと思いました。

—「マイ・フェイヴァリット・シングス」はロック・ギターが印象的です。

**川鱈**：この曲も以前からのライブ・レパトリーです。イントロをエレクトリック・ギターでかっこよく入って、激しく演奏してほしいだったので、その前にまず私がクッションの役割としてテンポ・ルバートで歌詞の一部を歌っています。北川さんに相談したら、ギターは絶対ロックの方がいい、と助言されて、道祖さんを紹介していただきました。

—「L-O-V-E」は意外なことに、トランペットとのデュオです。

**川鱈**：最後にほっとした気分の曲を、トランペットとのデュオでやりたかった。それに相応しい選曲がこの曲でした。以前、ライブで平手さんのトランペットと一緒したときの楽しくて貴重な体験を今回のアルバムにも収めたかったということもあります。

—新作を通じてリスナーに伝えたいことは？

**川鱈**：ジャズと出会って20年という時間を、夢中で模索してきて、その中に違うものを入れたい、という私の音楽史の途中経過と言える新作です。「音楽ジャンルを超えた」というひとつのカテゴリーで聴いてもらえると嬉しいです。これは無限の可能性があると思っていて、選曲やアレンジを一緒に考えて形になっていく作業も楽しかったので、今後もこのジャンルは続けていきたいですね。CDのジャケット写真は黒のパンツスーツ姿の私で、これは男性と女性を超えた、ボーダーレスなイメージを作りたいから。知り合いのカメラマン、デザイナーと3人で相談したもので、アルバム・コンセプトとも繋がっています。



## [BESTOKU] TOKU

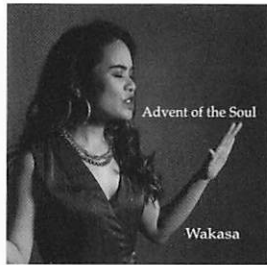
ソニー・ミュージック(Sony) SICJ-30027/30028  
¥4,000(税込) 8/24 Blu-spec 2CD



■ Disc1: 1. シスター・ムーン 2. ゴールデン・レディ 3. ケミストリー・オブ・ラヴ 4. レディ・イズ・ア・トランプ 5. オータム・ウィンズ 6. ため息/エンジェル・ブルー 7. タイム・イズ・ブルー 8. ドレミ 9. AM 10. マキシム 11. センド・ワン・ユア・ラヴ 12. ストレンジ・イン・ザ・ナイト 13. ムーン・シャイン 14. ホワット・ア・ワンダフル・ワールド 15. ニューヨーク・ニューヨーク 16. アゲイン Disc2: 1. ウィングス・オブ・ラヴ 2. ラヴ・イズ・コーリング・ユー 3. ロバート 4. フライ・ミー・トゥ・ザ・ムーン 5. スマイル 6. パート・タイム・ラヴァー 7. ルート88 8. アイ・ウィル・ウェイト・フォー・ユー 9. アイ・ゲット・ロスト・イン・ユア・アイズ 10. シー 11. シャイン・オン 12. パーブル・レイン 13. ミュージック・イズ・ザ・キー〜未来への鍵(以下欄外データ参照)

### アーティスト性を俯瞰する珠玉の32曲ベスト

アルバム名は「ベストク」、圧倒的な歌唱力と抒情性あふれるフェリチューゲルホーン演奏の「真正二刀流」で世界のジャズ・ファンをもウナらせてきたTOKUの、メジャー・デビューを飾った2000年リリース以降14作のなかから32曲をセレクトした、自身初となるオールタイム・ベストだ。14作にはそれぞれにテーマがあり、構成や編成、アレンジやテイストについて趣向が凝らされていて、そこから数曲を切り取ってつなぎ合わせるベスト盤という編集手法による作品は、レギュラー・リリースとは異なる楽しみ方ができることをお伝えしておかなければならないだろう。ベスト盤とは、「ヒット曲集」であったり「ハイライト」であったりと、そのアーティストにとっての経歴を手軽にたどれる「ファスト映画」的な認識をもっている人がいるかもしれないし、ダイジェストを入り口にしたい入門者にとってはそれが適切ならぬ方にもなるに違いない。しかし、TOKUという稀有な才能をダイジェストするのに32曲ではあまりにも早送りすぎるし、物足りないという人もいるだろうが、アーティストを俯瞰するという意味では、もともとテーマ性が希薄になることによって32曲に新たな意味が加えられ、時系列から解き放たれたTOKUという存在が浮かび上がってくるのだ。ゆえにゲストは「味変」ではなく、「接着剤」の役割を果たす。  
〈富澤えいち〉



## [アドヴェント・オブ・ザ・ソウル] Wakasa

Trilogic TL220711  
¥3,300(税込) 7/11  
2022年5月16日、23日 [aLive Recording Studio]、5月19日、6月2日、6日 [Trilogic Studio] 録音



■ 1. エイント・ノーバディ 2. スウィート・ラヴ 3. ヒーロー 4. ストリート・ライフ 5. ドント・ユー・ウォリー・バウト・ア・シング 6. アルフィー 7. アフター・ザ・ラヴ・ハズ・ゴーン 8. ユー・アー・ザ・ユニヴァース 9. シンク 10. ザ・グレイテスト・ラヴ・オブ・オール ■ Wakasa(vo,cho)、安部潤(kb,prog)、小川悦司(g,cho)、牧野竜之介(bs)、大津潤(ds)、小川このん(perc)、宮崎隆陸(sax)、松井秀太郎(tp,flh)、石橋采佳(tb)、三井大生(strings)、富岡美保(cho)、隅川真里(cho)

### 幸運の女神の前髪をつかんだ超新星シンガーのデビュー作

1990年生まれのシンガー、Wakasaの1stアルバム。2019年にニューヨークのエンタテインメントの殿堂「アポロシアター」と吉本興業の提携でスタートした「アポロ・アマチュア・ナイト・ジャパン2019」にエントリー、ファイナリストとして勝ち残り、圧倒的な歌唱力で審査員のマリオン・J・カフィー氏(プロデューサー)を驚嘆させ、特別賞が贈られ、その副賞でハーレムのアポロシアターで開催されたアマチュア・ナイト「スーパー・トップ・ドッグ」にアジア人として初めてゲスト出演したというシンデレラ・ストーリーをもったニュー・カムラだ。高校卒業時には歌を歌うことを仕事にしたいと思いつつもその術を知らず、就いた仕事がバスガイド。仕事は楽しかったものの、さらなる飛躍を求めて職を辞し、都内のライブハウスを拠点にシンガーとしての活動を続けるうちに「アポロ・アマチュア・ナイト・ジャパン」の開催を知った、というのが「幸運の女神の前髪をつかむ」までのお話。つかんでからの「本編」の始まりを告げるのがこのアルバムとなるわけだが、参加メンバーに国内トップ・レヴェルのミュージシャンが並び、その期待値の高さがタダもれになっているラインナップ。そんなブラコンのツボをシッカリ押さえた超新星の登場に、彼女が憧れたローリン・ヒルを継ぐ2020年代ならではのネオ・ソウルを叩いてもらいたい。  
〈富澤えいち〉



## [せびあ〜Guitar Trio〜]

成川修士  
ホワッツ・ニュー(What's New) GWNJ-2028  
¥3,000(税込) 8/24  
2022年5月11日、12日 [GROOVE STUDIO] 録音



■ 1. せびあ 2. トゥーズ・ブルース 3. パレード・フォー・スリー 4. 見上げてごらん夜の星を 5. フリーダム・ジャズ・ダンス 6. 花と木像と 7. 風の歌 8. 荒城の月 9. カントリー ■ 成川修士(g)、飯田雅章(b)、安藤正剛(ds)

### より深みと厚みを増してのギター・トリオ作第2弾

2020年に放った全編初のギター・トリオ作「3人囃子〜Guitar Trio〜」に続く第2弾にして、通算5作目。今回はアナログ・テープを回しての一発録りによる奥行きのあるサウンドが大きな違いであり、特徴だ。またラスト2曲は、レコーディングに先立って行なった配信ライブを、レーベル側が予行演習的にアナログ録音したもののだが、こちらも捨て難く収録するに至った。オリジナルと有名ジャズ・チューンや日本の古き名曲のカヴァーという構成は前作を踏襲しているが、今回は成川の曲だけではなく、ベースの飯田の曲が採用されている点も新味だ。そんな中、まず目を引かれるのがジム・ホール作の②。親指弾きの後期ジョン・アパークロンビーのニュアンスを感じたが、成川は人差指と中指が主体なので(歪ませている時は親指も使用)、より細かいフレージングで魅了。一方、エディ・ハリスの⑤では、敬愛するスコフィールドを彷彿するディストーション・プレイが炸裂。レイドバックしたリズムにも引き込まれる。5拍子にアレンジされた⑧では、序盤でフリーな3者のインタープレイから始まるのも面白い。成川は前作では自作のテレキャスターとクラシック・ギターだったが、今作では加えてフルアコ・モデルとスティール弦アコースティックも使用して、サウンドを拡張している点も特筆ものだ！  
〈石沢功治〉

■ TOKU [BESTOKU]データの続き ■ 14. ア・ホール・ニュー・ライフ 15. ザ・クリスマス・ソング 16. キス・オブ・ラヴ ■ TOKU(flh,vo)、別所哲也(vo/Disc1-4)、シッド・カフカ(ds/Disc1-7)、ゴスペラース(Disc1-10)、AISHA(Disc1-13)、Advanced Music Gallery(Disc1-15)、EXILE ATSUSHI(Disc1-16)、ロン・カーター(b/Disc2-4)、SUGIZO(g/Disc2-12)、Zeebra(rap/Disc2-13)、他



## [ロックン・ジャズ・イン・アールーム]

川崎祐子  
ホワッツ・ニュー(Swing Cat) GWNJ-5017  
¥3,000(税込) 8/24  
2022年1月27日、28日 千葉[GROOVE STUDIO] 録音、2022年1月27日、28日 千葉[GROOVE STUDIO] 録音



■ 1. サタデー・イン・ザ・パーク&オン・ザ・サニー・サイド・オブ・ザ・ストリート 2. おいしい水&スモーク・オン・ザ・ウォーター 3. ザ・ニクス・オブ・ユー 4. チュニアの夜&ウスクダラ 5. ウィル・ユー・スティル・ラヴ・ミー・トゥモロウ 6. オレンジ・カラード・スカイ 7. ストリー・ウェザー&セイリング 8. 青い影&テネシー・ワルツ 9. マイ・フェイヴァリット・シングス 10. L-O-V-E ■ 川崎祐子(vo)、小濱安浩(ts,ss)、平手裕紀(o,org,tp,arr)、道祖淳平(g)、北川弘幸(b)、浅井雅太(ds,perc)、大野智子(arr)

### ロックとジャズの軽やかなコラボ

“ジャズとロックを合体させて1曲にしたらどんなに楽しんだろう！” ずっと温めてきた気持ちが形になりました。大切にしてきたジャズ・ナンバーとロックの持つ世界観。ジャンルを超えるというよりも、融合。混ざるからこそ境界線はなく、まさにボーダーレス”。リリースに際してコメントを発表している川崎祐子は、岐阜を拠点に活動を展開する若きジャズ・シンガー。プロのシャンソン歌手を母に持つ家庭で育ち、大学時代の留学先のケンタッキー州ルイヴィルでジャズの魅力に触れ、その後、心の師と仰ぐメルバ・ジョイスと出会い、2009年にはテッド・ローゼンタール、クインシー・デイヴィイス、植田典子らと共演。その川崎が1st作品「Eight of New Yorkers」に続いて発表する本作には、前述の彼女の言葉にあるジャズとロックの他、ポップスやボサ・ノヴァなどさまざまな音楽スタイルが自由に溶け合う広々とした音楽が描かれていく。それを最もヴィヴィッドに伝えるのがボサ・ノヴァにアレンジした「スモーク・オン・ザ・ウォーター」のリフに乗せて「おいしい水」の旋律を軽やかに綴っていく②だろう。その他にも、ジャズ・ワルツとヘヴィメタルがフェーズする⑨や、アフロ・ジャズの名曲と民族音楽が溶け合う④など盛り沢山。正統派バラッドの③もGOOD！ 作品全体から彼女のしなやかな感性が伝わってくる。  
〈早田和音〉